

令和3年度 性別による無意識の思い込み (アンコンシャス・バイアス)に関する調査結果 (概要)

対象・項目設計

【対象】全国男女20-60代 10,330人(男性5,069人 女性5,165人 その他96人)

【項目設計】本調査の設計にあたり事前調査を実施した。性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験などの具体事例を自由回答で聴取し、整理・分類のうえ、本調査の測定項目とした。

1 性別役割意識(全体)

- 性別役割について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の4段階で聞いたところ、男女共に上位2項目は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が5割前後の高い割合となった。
- 男女差が大きく開いたのは「男性は～べきだ」という項目であるが、その他の項目についても全体的に男性が高い割合となった。

男性 上位10項目	回答者数：5069	(%)	女性 上位10項目	回答者数：5165	(%)
1 女性には女性らしい感性があるものだ		51.6	1 女性には女性らしい感性があるものだ		47.7
2 男性は仕事をして家計を支えるべきだ		50.3	2 男性は仕事をして家計を支えるべきだ		47.1
3 デートや食事のお金は男性が負担すべきだ		37.3	3 女性は感情的になりやすい		36.6
4 女性は感情的になりやすい		35.6	4 育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない		30.7
5 育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない		31.8	5 共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先すべきだ		23.8
6 男性は人前で泣くべきではない		31.0	6 共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ		23.2
7 男性は結婚して家庭をもって一人前だ		30.3	7 家事・育児は女性がするべきだ		22.9
8 共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ		29.8	8 組織のリーダーは男性の方が向いている		22.4
9 家事・育児は女性がするべきだ		29.5	8 大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい		22.4
10 家を継ぐのは男性であるべきだ		26.0	10 デートや食事のお金は男性が負担すべきだ		22.1

異性に対する思い込みだけではなく、男性・女性自身も無意識のうちに自身で(異性より)強く思い込んでいることもある。

令和3年度 性別による無意識の思い込み (アンコンシャス・バイアス) に関する調査結果 (概要)

2 性別役割意識(シーン別)

- 家庭・コミュニティシーンでは、男性の方が仕事と家事の分担に関して、性別役割意識が強い。
- 職場シーンでは、男女とも1位の「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきではない」との意識が強い。

家庭・コミュニティシーンでは、男女とも5位以内に仕事と家事の分担に関する3項目が入るが、男性の方が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が高かった。

性別役割に対する考え<シーン別>

(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の合計)

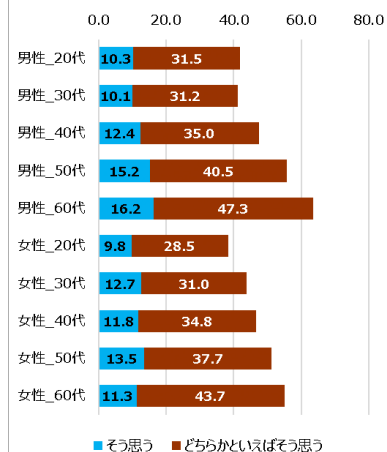
家庭・コミュニティ		女性 上位5項目	
男性 上位5項目	(%)	女性 上位5項目	(%)
男性は仕事をして家計を支えるべきだ	50.3	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	47.1
デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	37.3	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先すべきだ	23.8
男性は結婚して家庭をもって一人前だ	30.3	共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病すべきだ	23.2
共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先すべきだ	29.8	家事・育児は女性がするべきだ	22.9
家事・育児は女性がするべきだ	29.5	デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	22.1
職場		女性 上位5項目	
男性 上位5項目	(%)	女性 上位5項目	(%)
育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	31.8	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	30.7
組織のリーダーは男性の方が向いている	25.7	組織のリーダーは男性の方が向いている	22.4
受付、接客・応対(お茶だしなど)は女性の仕事だ	25.1	大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい	22.4
大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい	23.5	受付、接客・応対(お茶だしなど)は女性の仕事だ	20.1
職場での上司・同僚へのお茶くみは女性がする方がいい	22.2	職場での上司・同僚へのお茶くみは女性がする方がいい	16.9

3 性別役割意識(性・年代別)

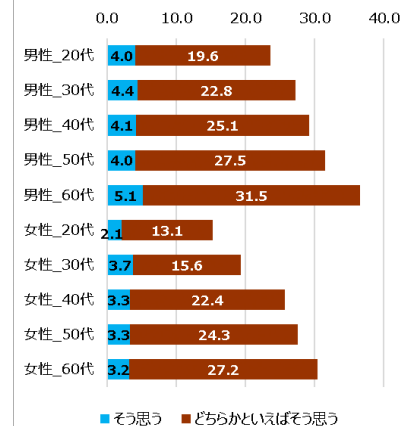
家庭・職場

- 男性50-60代で性別役割意識が強い(P8)
⇒「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」は、女性でも年代が高いほど性別役割意識が強い。
- 20-30代の男女間で性別役割意識にギャップがある(P9)
⇒「共働きでも男性は家庭より仕事を優先すべきだ」は、若い世代での意識の差が大きい。

【男性は仕事をして家計を支えるべきだ】



【共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先すべきだ】



令和3年度 性別による無意識の思い込み (アンコンシャス・バイアス) に関する調査結果 (概要)

4 性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験

直接・間接経験 メディアの影響

- 性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験は、「直接言われた経験」よりも「言動や態度から感じた経験(間接経験)」の方が多い。(P13、14)
- 男性より女性の方が、性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験があると回答している割合が高い。(P13、14)
- 50代-60代女性で、性別に基づく役割や思い込みの決めつけを「感じてきた」割合が高い。(P15)
- 性別役割や思い込みについて「直接言ったり、言動や態度から感じさせた」人としては、男性では「父親」「男性の知人・友人」が、女性では「配偶者・パートナー」が多く、職場シーンにおいては、男女とも「男性の職場の上司」が多い。(P17)
- メディアで見たり聞いたりすることが多いのは、「女性は感情的になりやすい」「女性は論理的に考えられない」。(P29)

直接言われたり聞いたりしたことがある			
男性 上位10項目		女性 上位10項目	
	(%)		(%)
1 男性は結婚して家庭をもって一人前だ	14.2	1 女性は感情的になりやすい	19.9
2 男性は仕事をして家計を支えるべきだ	13.6	2 女性には女性らしい感性があるものだ	17.2
3 デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	13.1	3 家事・育児は女性がするべきだ	16.9
4 男性は人前で泣くべきではない	12.5	4 男性は仕事をして家計を支えるべきだ	16.3
5 女性には女性らしい感性があるものだ	11.5	5 受付、接客・応対(お茶だしなど)は女性の仕事だ	15.7
6 女性は感情的になりやすい	11.3	6 家を継ぐのは男性であるべきだ	15.4
7 家を継ぐのは男性であるべきだ	11.1	7 男性は結婚して家庭をもって一人前だ	15.1
8 家事・育児は女性がするべきだ	9.4	7 職場での上司・同僚へのお茶くみは女性がする方がよい	15.1
9 男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ	8.8	9 親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	14.9
10 共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	8.7	10 女性は論理的に考えられない	14.0

男女両方で上位10位に入っている項目

直接ではないが言動や態度からそう感じたことがある			
男性 上位10項目		女性 上位10項目	
	(%)		(%)
1 家事・育児は女性がするべきだ	22.5	1 家事・育児は女性がするべきだ	31.8
2 男性は仕事をして家計を支えるべきだ	21.3	2 受付、接客・応対(お茶だしなど)は女性の仕事だ	26.7
3 デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	20.5	3 男性は仕事をして家計を支えるべきだ	26.2
4 男性は結婚して家庭をもって一人前だ	20.2	4 親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	26.0
5 受付、接客・応対(お茶だしなど)は女性の仕事だ	19.6	5 共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ	25.8
6 女性は感情的になりやすい	19.5	6 職場での上司・同僚へのお茶くみは女性がする方がよい	25.3
7 女性には女性らしい感性があるものだ	19.4	7 女性は感情的になりやすい	24.3
8 家を継ぐのは男性であるべきだ	18.7	8 家を継ぐのは男性であるべきだ	23.9
9 共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	18.6	9 実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ	23.8
10 親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	18.6	10 デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	23.6

性別役割を言ったり、言動を感じさせた人

性別	36項目中	36項目中
男性	父親	1位に上げられた項目数 27項目
	男性の知人・友人	2位に上げられた項目数 25項目
	男性の職場の上司	3位に上げられた項目数 14項目
	母親	3位に上げられた項目数 10項目
女性	男性の職場の上司	1位に上げられた項目数 13項目
	配偶者・パートナー	1位に上げられた項目数 10項目
		2位に上げられた項目数 14項目
	父親	1位に上げられた項目数 7項目

■メディア計：「テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで見たとある」の回答割合

■直接：「直接言われたり聞いたりしたことがある」の回答割合

(数字は%)
男性 n=5069
女性 n=5165

